

◆生産者会議

平成24年度魚介藻類養殖生産者会議

水産業改良普及センター本部駐在 中村勇次

1. 目的

県内魚介藻類養殖生産者の養殖技術向上と関係者の連携強化及び情報交換を目的として講習会を開催する。平成21年度までは「魚類・介類養殖生産者会議」であったが、平成22年度からは藻類養殖生産者も対象とした「魚介藻類養殖生産者会議」として開催することになった。

2. 日時及び場所

平成25年2月27日（水）

恩納村コミュニティーセンター内会議室

3. 結果

会議は、普及センター大嶋所長の挨拶で開会した。

最初に、日生研株式会社 魚谷勇介氏から「ハタ科魚類において問題となるウイルス性神経壊死症のワクチンについて」が報告された。ハタ科魚類で大きな斃死の原因となっているウイルス性神経壊死症（VNN）ワクチンについて報告された。同ワクチンは、ヤイトハタ、チャイロマルハタについてはまだ臨床試験が行われていないため現在は使用できないが将来的にはハタ科魚類に広く使用できるようにしたいとの認識が示された。

続いて、（株）碧コンサルタント 玉城重則氏から「沖縄ミーバイ生産者販売促進協議会の活動報告について」が報告された。同社は、同協議会の運営・販促活動の委託を受けており、協議会の発足、販売促進活動、プロモーション活動・方法発信について写真を交えながら報告した。

続いて、沖縄県栽培漁業センター 岩井憲

司研究員から「ヒメジャコを活用した栽培漁業センターの取り組み」が報告された。ヒメジャコは、塊状サンゴの死骸である岩礁に潜行して生息しているが、人工的に作成した養殖基盤による生育試験の紹介や、これらの基盤を並べることで景観にも配慮した「海のお花畑構想」等の紹介が行われた。

続いて、沖縄県水産海洋研究センター 須藤裕介研究員から「オキナワモズク選抜育種試験について」が報告された。同研究員は、数年前からモズクの太さ・長さ・枝分かれの様子が特徴的な株を同定し、株によりその性質が遺伝することを突き止めた。このうちの1株については既に配布が行われており、今後も優良株を探索してモズク養殖の振興に寄与したいとのことであった。

最後に、沖縄県栽培漁業センター 玉城英信研究主幹から「情報提供（種苗生産情報等について）」では、平成23年度の配布種苗実績、平成24年度の種苗配布計画が報告された。

4. 考察

今年は、会議の対象魚種が魚類、介類、藻類に増えたこと、恩納村で開催したことからか年度末の時期にも関わらず50名収容の会議室が一杯になるほどの出席があった。今後とも同会議を開催する必要性を再認識することとなった。

今後とも、魚類、介類、藻類を総括した生産者協議会として引き続き情報提供の場として会議を継続していく必要がある。



魚介藻類養殖生産者会議の様子



沖縄ミーバイ生産者販売促進協議会の活動報告を行った(株)碧コンサルタント玉城氏



ハタ科ワクチンについて報告した日生研魚谷氏



ヒメジャコを活用した取り組みを紹介した栽培漁業センター岩井研究員



沖縄ミーバイ協議会活動報告の前に大嶋普及センター長から事業概要の紹介



オキナワモズク選抜育種試験について報告した水産海洋研究センター須藤研究員(左)